

令和7年
2025年

7月22日
火曜日

第11758号

食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日
第三種郵便物認可

購読料(前納)
年間 82,080円
(税込み)
6カ月 42,120円
(税込み)

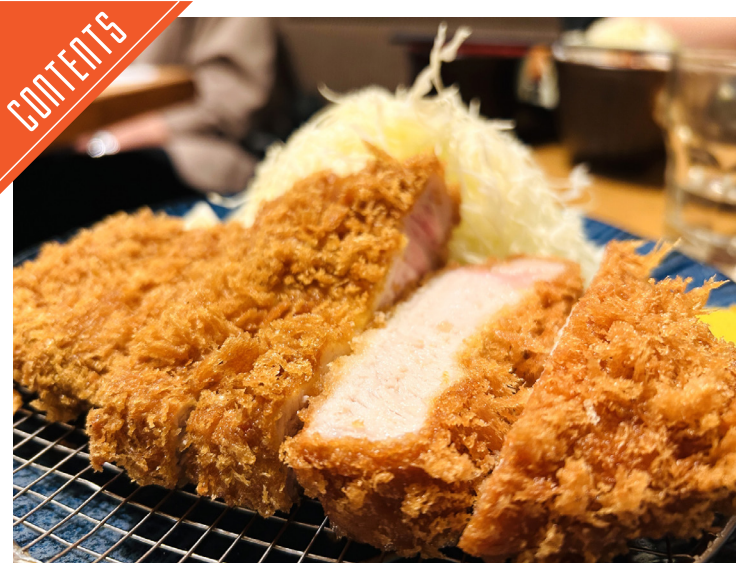
本紙は関連企業・団体との
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社
☎101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社
☎550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局
☎812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



▶ 大手牛肉サプライヤーインタビュー⑤ 輸出さらに強化、デマンドチェーン視点を一スターゼン 池尻尊広上席執行役員営業本部長……………P2~3

▶ [配合飼料生産量・5月]計195万9779tで前年比2・7%減……………3

▶ 小川フード&サービス「FUJI ROCK FESTIVAL'25」に「老舗肉問屋OGAWA」出店……………P3

▶ [USDA需給予測]25年食肉生産総量年計は0・2%減、26年は0・8%増……………P4

▶ 7月の食品価格動向調査、国産牛肉は23円高、輸入牛肉は4円高……………P5

▶ かつや、にんにく香る夏のがつつり「トンテキとチキンカツの合い盛り丼」期間限定発売……………P5

▶ EUがイタリア、フランスで初となるランピースキン病の発生確認……………P6

▶ 【東京食肉卸売市場】牛は盆向け手当ても、豚は歴史的な高値続く……………P7

▶ 【大阪市食肉卸売市場】和牛は弱もちあい、豚上場伸びず高値続く……………P7

▶ 松のや、日本ハムコラボシリーズ「国産麦小町ロースかつ」発売……………P7

▶ [資料]市場別取引実績 牛……………P8

▶ [資料]市場別取引実績 豚……………P9

▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数]18日……………P10

▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場]18日……………P11

注目のヘッドライン

大手牛肉サプライヤーインタビュー⑤
輸出さらに強化、デマンドチェーン視点を一スターゼン 池尻尊広上席執行役員
営業本部長 ……詳細はP2~3

[配合飼料生産量・5月]計195万
9779 tで前年比2・7%減 ……詳細はP3



Nipponham Group
たんぱく質を、もっと自由に。

食肉施設の設計・施工・コンサルタント

— 食肉業界をリードする —



〒110-0016 東京都台東区台東4-20-5
☎03-3834-1561(代) <https://hanaki-eng.co.jp/>

大手牛肉サプライヤーインタビュー⑤輸出さらに強化、デマンドチェーン視点を —スターゼン 池尻尊広 上席執行役員 営業本部長

—2024年度の概況は。

国産牛肉の数量はほぼ前年並み、金額は前年比105%となりました。国内消費が低迷した分、海外輸出に注力することで数量をカバー。また、高値相場により、金額は前年から増加しました。

輸入ビーフは数量が103・7%、金額は109・3%と伸長しました。相場高、外貨高、円安といった影響が大きく、チルドについては量販店の需要が減少しました。フローズンは、ショートプレートやトリミングなどのコストが上昇しました。ただ、厳しい環境の中においても新規の顧客開拓などを進め、年間では前年を上回りました。

—25年度の計画は。

国産牛肉は数量が前年比102・8%、金額が102・1%と共に前年を上回る計画を立てています。

輸入ビーフは前年は非常に厳しい環境の中で数量を伸ばしましたが、今年は99・4%と少し厳しくみており、金額は101・2%を見込みます。牛肉全体では前年実績を確保する計画です。

国内では和牛の高等級の需要が低迷し、和牛の低等級と交雑牛を含めた販売がカギになります。上物の高級部位などは海外に輸出しながら、国内需給とのバランスを取っていく必要があります。

米国による相互関税や為替などの不安定要素もありますが、台湾、香港などを中心に米国、欧州などの主要マーケットへの輸出は好調です。

阿久根工場(鹿児島)に加え、同じ鹿児島の加世田工場、青森の三戸ビーフセンターにおいても輸出拡大に向けて、賞味期限の設定や工場整備などを進めます。

さらに販売面では日本の牛肉輸出全体の15~18%のシェア獲得を目標に掲げます。

輸入ビーフはマーケットの縮小傾向が顕著です。米国産は引き続き厳しい供給状況が見込まれるため、豪州産を中心に販売シェアを高め、売り上げを確保していきます。

—販売強化するブランドは。

国産では、新たに資本業務提携を締結した水迫畜産グループの「さつまビーフ」の販売に引き続き注



力。国内最大規模の生産者であり、自家製配合飼料を給餌していることが大きな特長です。環境への配慮や食品ロス削減にも前向きに取り組んでおり、当社も一層連携を強化します。

産学連携の取り組みでは、北里大学の学生と専属スタッフが育てた有機JAS認証取得の「八雲短角和牛」を販売しています。夏山冬里方式を実現しており、繁殖から肥育まで自給率100%の有機牧草のみで一貫生産。当社が取り扱う初めての国産オーガニックビーフです。

「浜中黒牛」は北海道浜中町で一貫生産された交雑牛。グループ内で完結し完全にトレースできるのが大きな強みです。足寄の牧草地で国産粗飼料の完全自給を目指します。

輸入ビーフでは引き続き豪州産「麦黒牛」をメインに販売。穀物中心に200日以上肥育しており、30年以上にわたり愛されています。

—注力する取り組みや商品開発について。

国内の牛肉需要が年々鈍化する一方、海外での需要は拡大しています。和牛についてはロイン系アイテムを中心に少量パックやスキンパックなどで海外市場に積極的にアプローチします。メニュー提案などを含めたプロモーションも重要です。

交雑牛や和牛や乳牛の経産再肥育などへの注目も高まっており、生産者と一緒に価値を高める取り組みを進めます。

また、原料が高騰する中、ボーラーブレード(カタサンカク)にスリットを入れ、食べ応えのある厚切りの赤身牛肉を濃い味付けで手頃楽しめる「赤いビフテキ」「黒いビフテキ」が好評です。

ローストビーフについては「ハレの日」だけでなく日常使いを訴求。現在、それに向けた新商品を開発しています。

—生産の取り組みは。

豪州の肉牛肥育農場を子会社化し、豪州Wagyuの生産、販売に取り組みます。水迫畜産グループにも協力いただき、中国市場を含めたグローバル市場に供給します。国内では昨今、生産者にとって非常に厳しい環境が続いています。短期肥育などの取り組

みも進められていますが、和牛のおいしさの本質を追求することも重要です。

また、これまで「サプライチェーン」の視点で、生産現場から消費者へつなぐという考え方でしたが、これからは消費者のニーズを生産現場に伝えていく「デマンドチェーン」の視点を持ち、最後に食べていただくお客さまの目線に立って生産を行う必要があります。

【配合飼料生産量・5月】計195万9779tで前年比2・7%減

農水省が18日に公表した5月の配合飼料の生産・出荷・在庫状況(速報版)によると、生産量は195万9779t(前年同月比2・7%減)、出荷量は197万4587t(2・6%減)となった。

そのうち養鶏用をみると、成鶏は生産量が46万2907t(1・8%減)、出荷量が46万9743t(1・6%減)、ブロイラーは生産量が33万4622t(1・6%減)、出荷量が33万5944t(2・0%減)となっている。育すうは生産量が5万5900t(5・3%増)、出荷量が5万6536t(6・1%増)と前年同月を上回った。

養豚用の肉豚は生産量が19万2547t(0・7%減)、出荷量が19万4696t(1・3%減)、子豚は生産量、出荷量ともに前年同月を下回った。

肉牛用は生産量が39万2097t(4・

3%減)、出荷量は39万6382t(3・9%減)。肉牛用のうち子牛用は生産量、出荷量ともに前年同月を下回った。

配合飼料生産・出荷・在庫状況

単位:トン、%

	区分	生産量	前年比	出荷量	前年比	当月末在庫
養鶏用	計	853,429	98.7	862,223	98.7	10,575
	育すう	55,900	105.3	56,536	106.1	1,134
	成鶏	462,907	98.2	469,743	98.4	4,820
	ブロイラー	334,622	98.4	335,944	98.0	4,621
養豚用	計	447,320	97.2	450,155	96.8	14,140
	ほ乳期	56,356	96.1	55,777	95.8	6,499
	子豚	121,025	93.4	121,995	92.9	2,457
	肉豚	192,547	99.3	194,694	98.7	3,312
養牛用	種豚	77,392	99.0	77,689	99.3	1,872
	乳牛用計	262,838	95.9	261,758	96.3	28,536
	うち子牛用	13,981	101.5	13,054	97.4	4,114
	肉牛用計	392,097	95.7	396,382	96.1	29,156
	うち子牛用	53,956	90.8	54,552	92.0	8,999

注:工場数130

小川フード&サービス「FUJI ROCK FESTIVAL'25」に「老舗肉問屋 OGAWA」出店

小川畜産食品(株)(東京都品川区、小川晃弘社長)のグループ企業で、レストランや焼き肉店をはじめとする外食産業向けに食肉卸売事業を行う小川フード&サービス(株)(神奈川県川崎市、小川大介社長)は、新潟県湯沢町で25~27日に開催される日本最大級の野外フェスティバル「FUJI ROCK FESTIVAL'25」に出店する。

小川フード&サービスの出店場所はYELLOW

CLIFF、出店名は「老舗肉問屋OGAWA」で、小川グループのブランド豚「白姫豚」を使用した「白姫豚ロースカツサンド」(税込み1千円)や国産牛を整形する際の端材肉をたっぷり使った「小川のびーふかれいぱん」(800円)、小川グループの原点である品川区二葉の精肉店「小川畜産総本店」で人気の「お肉屋さんのコロッケ」(300円)などを販売する。

[USDA 需給予測] 25 年食肉生産総量年計は 0・2%減、26 年は 0・8%増

米国農務省 (USDA) は現地時間17日、食肉などの需給予測 (表参照) を発表した。それによると、2025年の食肉生産総量は前年割れの1073億7300万ポンドとなった。食肉別にみると、牛肉の年間生産量は下方修正されて261億8800万ポンド (前年比2・9%減)、豚肉は上方修正されて280億4100万ポンド (0・9%増)、ブロイラーも上方修正されて476億9千万ポンド (1・5%増)。1～3月の食肉生産総量は263億6900万ポンド (前年同期比0・6%減)、4～6月は263億7800万ポンド (0・9%減)、7～9月は270億9千万ポンド (0・2%増)、10～12月は275億3700万ポンド (0・4%増) と予測されている。

26年の総量は1081億7900万ポンド (0・8%増)。

1～3月は265億8900万ポンド (0・8%増) で、今回新たに公表された4～6月は266億4900万ポンド (1・0%増) となっている。

家畜に寄生するラセンウジバエによる被害を防ぐため、USDAはメキシコ経由の生体牛輸入を5月から停止していたが、6月末に段階的な輸入再開を発表した。しかし、7月になるとラセンウジバエが同国内で再び検出され、米国は再度輸入を停止。26年にも影響が残る可能性があると考えられる。

また、5月の米国の牛肉輸入量は5億5千万ポンドで、前年同月比では60%の増加となった。ブラジルからの輸入がそのうちの約3割を占め、前年同月と比べると5倍以上の輸入量となっている。

米国の食肉需給予測 (7月17日現地公表)

		24年	25年予測	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	26年予測	1-3月	4-6月
生産量	牛肉	26,984	26,188	6,543	6,450	6,590	6,605	25,815	6,360	6,460
	(前年比)	100.1%	97.1%	99.8%	95.4%	97.2%	96.0%	98.6%	97.2%	100.2%
	豚肉	27,789	28,041	6,956	6,740	6,905	7,440	28,480	7,045	6,865
	(前年比)	101.8%	100.9%	98.1%	100.4%	101.9%	103.2%	101.6%	101.3%	101.9%
	ブロイラー	46,994	47,690	11,565	11,850	12,200	12,075	48,100	11,800	11,900
	(前年比)	101.3%	101.5%	101.2%	101.7%	101.6%	101.4%	100.9%	102.0%	100.4%
	羊肉	134	137	34	36	33	34	132	33	32
	ターキー	5,121	4,796	1,146	1,175	1,225	1,250	5,080	1,215	1,250
合計	107,625	107,373	26,369	26,378	27,090	27,537	108,179	26,589	26,649	
(前年比)	100.7%	99.8%	99.4%	99.1%	100.2%	100.4%	100.8%	100.8%	101.0%	
市場価格	チョイス去勢牛	187.12	221.31	205.02	225.22	226.00	229.00	228.50	227.00	228.00
	(前年比)	106.6%	118.3%	113.3%	119.5%	119.4%	120.7%	103.2%	110.7%	101.2%
	生体豚	63.41	68.57	63.59	69.69	76.00	65.00	64.75	64.00	68.00
	(前年比)	108.2%	108.1%	110.2%	103.5%	115.7%	103.4%	94.4%	100.6%	97.6%
	ブロイラー	129.4	133.9	130.8	135.9	135.0	134.0	135.5	134.0	138.0
	(前年比)	104.0%	103.5%	102.2%	102.9%	106.0%	103.1%	101.2%	102.4%	101.5%
ターキー	93.7	118.5	94.8	119.3	130.0	130.0	121.3	115.0	120.0	
輸出入量	牛肉輸出	3,007	2,728	713	700	660	655	2,565	650	660
	(前年比)	99.0%	90.7%	97.3%	89.5%	89.8%	87.0%	94.0%	91.2%	94.3%
	牛肉輸入	4,635	5,377	1,482	1,475	1,240	1,180	5,350	1,450	1,400
	(前年比)	124.4%	116.0%	123.9%	145.8%	102.5%	96.9%	99.5%	97.8%	94.9%
	豚肉輸出	7,125	6,973	1,783	1,690	1,660	1,840	7,000	1,780	1,735
	(前年比)	104.4%	97.9%	98.9%	95.8%	99.0%	98.3%	100.4%	99.8%	102.7%
	豚肉輸入	1,148	1,115	280	285	275	275	1,140	290	285
	(前年比)	100.5%	97.1%	94.0%	97.9%	100.4%	96.5%	102.2%	103.6%	100.0%
	生体豚輸入	6,760	6,584	1,774	1,650	1,570	1,590	6,470	1,740	1,645
	(前年比)	100.2%	97.4%	101.5%	95.2%	98.2%	94.5%	98.3%	98.1%	99.7%
	ブロイラー輸出	6,680	6,473	1,628	1,570	1,600	1,675	6,610	1,645	1,615
	(前年比)	92.0%	96.9%	95.0%	96.2%	95.8%	98.1%	102.1%	101.0%	102.9%
	ターキー輸出	486	405	95	95	100	115	435	100	105
(前年比)	99.2%	83.3%	86.4%	79.8%	75.2%	92.7%	107.4%	105.3%	110.5%	

単位: 量は百万ポンド、価格は牛・豚は百ポンド当たりドル、家禽はポンド当たりセント

7月の食品価格動向調査、国産牛肉は23円高、輸入牛肉は4円高

農水省大臣官房政策課食料安全保障室はこのほど、7月(7~9日)の「食品価格動向調査」(食肉・鶏卵)の調査結果を公表した。同調査は各都道府県10店舗(全国470店舗)について訪問調査を実施。価格は特売価格などを含まない消費税込み価格で、全調査店舗の単純平均となっている。

全国平均小売価格は834円で前月比23円高、輸入牛肉(冷蔵ロース・100g)は394円で4円高だった。豚肉(ロース・100g)は278円で4円高、鶏肉(モモ肉・100g)は150円と2円高となった。また、平年比では国産牛肉が1%高、輸入牛肉が20%高、豚肉が6%高、鶏肉が15%高となった。

調査によると、国産牛肉(冷蔵ロース・100g)の

大臣官房政策課食料安全保障室「食品価格動向調査(食肉・鶏卵)」による全国平均小売価格

(単位:円/100g、鶏卵は円/1パック)

調査期間	輸入牛肉 (冷蔵ロース)	国産牛肉 (冷蔵ロース)	豚肉 (ロース)	鶏肉 (モモ肉)	鶏卵 (サイズ混合・10個入)
令和6年7月 (7/7~7/9)	394	834	278	150	299
令和6年6月 (6/9~6/11)	390	811	274	148	301
令和6年5月 (5/12~5/14)	390	824	275	144	297
令和6年4月 (4/7~4/9)	389	821	274	143	294

注1:各都道府県10店舗(全国470店舗)について訪問調査。2:価格は特売価格等を含まない消費税込み価格で、全調査店舗の単純平均である。3:鶏卵は令和元年7月に「Lサイズ」から「サイズ混合」に調査規格を変更。

かつや、にんにく香る夏のがっつり 「トンテキとチキンカツの合い盛り丼」期間限定発売

アークランドサービスホールディングス(株)の子会社、トンカツ専門店「かつや」を展開している(株)かつや(東京都千代田区、大内勇一社長)は、国内同店で「トンテキとチキンカツの合い盛り丼」(税込み979円)を18日から期間限定で販売開始した。

北米(カナダ・米国)産で、加工工場から店舗に到着するまで約4週間熟成されたチルド状態で納品される、同店こだわりの豚ロース120gを大判のトンテキに仕立てた。にんにく香る特製トンテキソースを絡めれば、白米を口に運ぶ箸が止まらない一品に仕上げた。さらに、揚げ上がったときにサクサク食感を生み出す「剣立ち」を重視し、パン粉にするパンも同店専用に原料を厳選。粒子の大きさにもこだわった、究極の生パン粉を使用したチキンカツと合い盛りにするこ



とで、夏本番も頑張る人を応援する全力飯に仕立てた。

なお同商品は、丼単品および、とん汁を添えた定食も用意しているほか、それぞれ、店内飲食に加え弁当としてテイクアウトも展開。さらに、ネット注文実施店舗では、テイクアウトの事前予約&決済で店舗での待ち時間を短縮できるネット注文が便利となっている。

EU がイタリア、フランスで初となるランピースキン病の発生確認

イタリア保健省はこのほど、地中海に位置するサルデーニャ島の農場から同国で初となるランピースキン病の発生を確認したと公表した。その後、2日までにサルデーニャ島(9件)と同国北部のロンバルディア州(1件)で計10件の発生が確認されている。

イタリア当局は、EU規則に沿って、発生農場から半径20kmの保護区域(Protection Zone)と同50kmの監視区域(Surveillance Zone)を設定した。監視区域は最低45日間設定され、同区域内では牛の移動制限などの防疫措置が取られた。

6月29日には、フランスでも同国初となるランピースキン病の発生が確認された。発生地域はフランス南東部のスイスおよびイタリア国境近くのオート・サヴォワヌ・ローヌ・アルプ地域圏のサヴォワ県である。

フランスでもイタリアと同様に、発生農場から半径20kmの保護区域と同50kmの監視区域が設定された。監視区域は近隣3県(オート・サヴォワ県、アン県、イゼール県)に及ぶ。

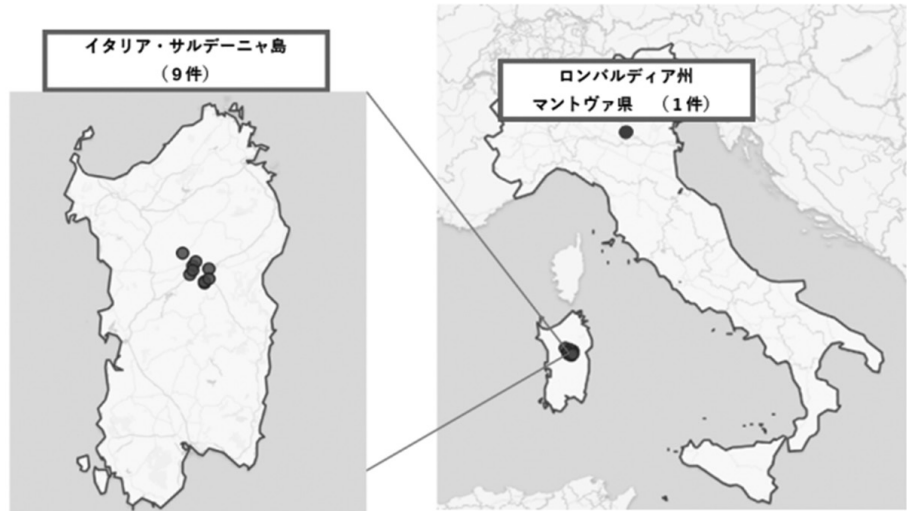
ランピースキン病は北アフリカ、欧州東部、アジアで感染が拡大しているものの、イタリアとフランスの当局によると、7月2日時点でランピースキン病の感染源を特定するために調査中であると、感染経路は不明であるとしている。

これらの事例の発生を受け、日本は6月24日にイタリア産、7月1日にフランス産牛由来製品(牛精液、牛受精卵<フランスのみ>)、牛内臓製品、飼料用に供する偶蹄類動物由来の乳製

品<加熱処理が確認されたものを除く>の輸入を一時停止した。

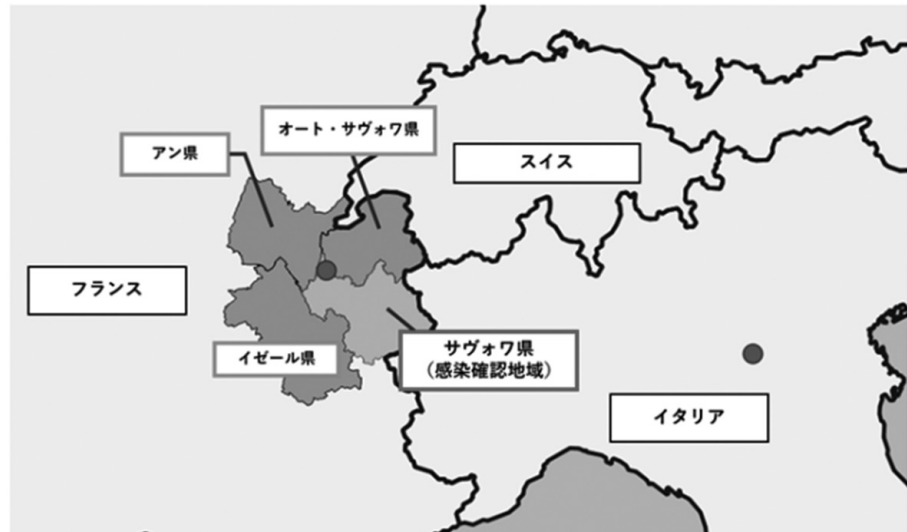
また、英国は、生きた牛、遺伝資源(精液、卵子、胚)、生乳とその由来製品、内臓肉(横隔膜と咬筋<ホホ肉>を除く)、皮革および毛皮(国際獣疫事務局が定める手法に従って処理されたものを除く)、その他の牛由来副産物(ゼラチン、コラーゲン、角などを除く)の輸入を一時停止した。(農畜産業振興機構)

イタリアにおけるランピースキン病発生地域



資料:イタリア国立獣医学疫学センター
注:発生件数は7月2日時点のもの

フランスにおけるランピースキン病発生地域の周辺地図



資料:国際獣疫事務局のデータを基に、著者作成
注:赤丸印はランピースキン病の発生場所を示す。

【東京食肉卸売市場】牛は盆向け手当ても、豚は歴史的な高値続く

[牛] 前週は和牛、交雑牛ともに弱もちあい。各社在庫を抱えており、3連休前ではあったが、和牛雌を除き週頭に大きく下がった。その後はやや戻したもののあまり伸びなかった。和牛3等級と4等級は縮まっていた価格差がやや開いてきている。

末端は、悪天候が続いたこともあり全体的に荷動きは悪い。とくに和牛の高級部位は重く、赤身の引き合いも弱くなっている。今週から盆向けの手当てが本格的になる。和牛はまだ模様眺めのところも多いようだが、交雑牛の受注は好調で、地方からの引き合いも強いよう。参議院選挙が終了し、梅雨明けも近いとみられており、焼き材中心に動き出すだろう。

今週の上場は平均380頭ほどが予定されている。盆前の競りは8月8日が最後となることから、手当ては早いか。和牛去勢A5は2400～2500円、A4は2100～2200円、A3は2千円前後のもちあい。交雑牛去勢はB4が1600～1700円、B3が1550～1650円か。3連休の状況次第だが、補充買いが入れば交雑は一段上げも想定される。

[豚] 枝肉価格は上物、中物ともに900円を超えており、半世紀ぶりの高値相場が継続している。東京以外の関東近郊の市場でも上物価格は軒並み900円を超えており、歴史的な高値となっている。

連休を前にしても全国と畜頭数は6万頭台に届かず、連休向けの手当ても入ってくる中で、供給量が不足。猛暑の影響で肉豚の増体がうまくいかず、出荷がキャンセルされるケースも散見される。

国産相場がここまで高騰する中、当然輸入物にシフトする動きも増えており、チルドポーク中心に全体的な引き合いは強まっている。今後さらに厳しい暑さが続くことが予想される中、国内での出荷頭数が回復するのはしばらく先になりそうだけに、売り場でもフローズンポークを含めて輸入物中心の品ぞろえにせざるを得ない状況になっている。ただ、輸入ポークについても現地相場の高止まりなどもあり、一部では先高観もみられる。

連休明けとなる今週も引き続き高値継続か。

【大阪市食肉卸売市場】和牛は弱もちあい、豚上場伸びず高値続く

[牛] 共励会・研究会シーズンに入っていることから、いつにも増して良質の枝肉が出品されている。ただ、末端の消費環境は冷えたままで、競り合った枝肉は高値になっていくが、そうでないと価格にかなりの差が生じてしまう。4等級も落ち着いてきており、2千円を割っている。

上場頭数もそれほど多くはないが、今週も弱もちあいと予測する。

一方、交雑牛は引き続きB3等級で1600円を上回る高値を形成。代替需要として強い引き合いがある。交雑牛の勢いは続くだろう。

[豚] 猛暑の影響で上場頭数が伸び悩んでいることや、全国的な引き合いの強さもあって相変わらず高値が続いている。夏本番ともいえる8月を控え、この先も猛暑が見込まれる中では上場頭数も伸びず、相場は下がらないだろう。

松のや、日本ハムコラボシリーズ「国産麦小町ロースかつ」発売

(株)松屋フーズ(東京都武蔵野市、瓦葺一利社長)は、トンカツ専門店の「松のや」で23日から、「国産麦小町ロースかつ」(税込み1090円)を発売する。

「国産豚シリーズ」は、麦をベストな比率で配合した飼料ですくすく育ち、うまみ成分も栄養もたっぷり

詰まった日本ハムとのコラボの「国産豚肉 麦小町」を使用した商品。肉の軟らかさ、脂身の甘さが段違いのおいしさで、鬼おろしポン酢やみそダレをはじめ、から揚げやえびフライとの盛り合わせ定食などバリエーション豊富なラインアップとなっている。

[資料] 市場別取引実績 牛

(令和6年1月~12月)

区分 市場	取引成立 頭数	畜種別内訳頭数				畜種別構成比			
		和牛	乳牛	交雑牛	その他の牛	和牛	乳牛	交雑牛	その他の牛
仙台	15,057	10,540	3,088	1,428	1	70.0	20.5	9.5	0.0
さいたま	11,196	2,014	8,032	1,150	-	18.0	71.7	10.3	-
東京	140,414	93,166	11,903	35,345	-	66.4	8.5	25.2	-
横浜	16,466	8,983	342	7,101	40	54.6	2.1	43.1	0.2
名古屋	8,522	4,781	512	3,229	-	56.1	6.0	37.9	-
京都	13,954	11,750	44	2,159	1	84.2	0.3	15.5	0.0
大阪	19,637	10,080	196	9,351	10	51.3	1.0	47.6	0.1
神戸	12,372	12,327	-	44	1	99.6	-	0.4	0.0
広島	7,806	3,686	1,644	2,475	1	47.2	21.1	31.7	0.0
福岡	29,046	22,413	1,733	4,893	7	77.2	6.0	16.8	0.0
茨城	6,519	3,330	2,650	539	-	51.1	40.7	8.3	-
栃木	6,320	1,156	1,370	3,794	-	18.3	21.7	60.0	-
群馬	13,054	3,507	259	9,288	-	26.9	2.0	71.2	-
山口	5,535	1,550	885	3,100	-	28.0	16.0	56.0	-
山梨	3,093	935	1,148	1,009	1	30.2	37.1	32.6	0.0
岐阜	3,424	3,413	-	11	-	99.7	-	0.3	-
浜松	3,046	730	79	2,237	-	24.0	2.6	73.4	-
東三河	6,063	1,017	731	4,315	-	16.8	12.1	71.2	-
四日市	411	302	2	107	-	73.5	0.5	26.0	-
姫路	21,099	14,692	2,423	3,983	1	69.6	11.5	18.9	0.0
加古川	4,017	2,494	15	1,507	1	62.1	0.4	37.5	0.0
西宮	1,641	615	-	1,026	-	37.5	-	62.5	-
岡山	3,792	1,133	1,431	1,228	-	29.9	37.7	32.4	-
坂出	6,853	1,821	470	4,562	-	26.6	6.9	66.6	-
佐世保	9,568	7,950	1,424	192	2	83.1	14.9	2.0	0.0
計	368,905	224,385	40,381	104,073	66	60.8	10.9	28.2	0.0

資料：公益社団法人食肉市場卸売協会

[資料] 市場別取引実績 豚

(令和6年1月~12月)

区分 市場	取引成立 頭数	規格別				取引頭数				「上」以上の 率 %
		「極上」	「上」	「中」	「並」	「等外」				
仙台	20,288	146	7,131	7,537	4,367	1,107	35.9			
さいたま	52,014	1,413	19,942	15,194	9,063	6,402	41.1			
東京	223,159	2,629	76,907	82,383	35,558	25,682	35.6			
横浜	153,478	1,083	77,245	55,050	14,633	5,467	51.0			
名古屋	209,839	5,512	105,894	67,095	21,511	9,827	53.1			
京都	19,967	223	8,167	7,805	3,347	425	42.0			
大阪	30,992	37	6,645	10,540	7,280	6,490	21.6			
神戸	15,480	75	6,071	5,371	3,559	404	39.7			
広島	52,252	499	24,347	17,409	7,185	2,812	47.6			
福岡	111,493	2,584	49,454	41,017	12,574	5,864	46.7			
茨城	158,589	565	57,196	51,804	23,478	25,546	36.4			
栃木	20,961	29	7,653	6,910	2,146	4,223	36.6			
群馬	420,678	4,468	231,715	126,559	37,761	20,175	56.1			
川口	-	-	-	-	-	-	-			
山梨	19,289	61	7,856	7,003	3,713	656	41.0			
岐阜	46,701	1,407	25,185	14,268	3,709	2,132	56.9			
浜松	51,185	1,044	28,629	15,124	4,119	2,269	58.0			
東三河	206,039	3,387	102,480	65,708	23,297	11,167	51.4			
四日市	96,613	1,499	43,198	31,106	15,991	4,819	46.3			
姫路	-	-	-	-	-	-	-			
加古川	-	-	-	-	-	-	-			
西宮	-	-	-	-	-	-	-			
岡山	66,637	651	32,350	23,373	9,138	1,125	49.5			
山出	9,711	169	4,399	3,407	1,157	579	47.0			
佐世保	15,462	76	6,593	4,649	1,359	2,785	43.1			
計	2,000,827	27,557	929,057	659,312	244,945	139,956	47.8			

資料：公益財団法人食肉市場卸売協会

東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 7月18日
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A 72頭	高値	3,255	2,205	2,119	-	-
		安値	2,088	2,003	1,683	-	-
		平均	2,366	2,101	1,999	1,682	-
		頭数	45	19	7	1	-
	雌 B 1頭	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	2,055	-	-	-
		頭数	-	1	-	-	-
	去 A 163頭	高値	3,171	2,485	2,151	1,729	-
		安値	2,138	2,056	1,738	1,644	-
		平均	2,475	2,157	2,056	1,687	-
		頭数	111	37	13	2	-
去 B -頭	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	-	-	-	-	
	頭数	-	-	-	-	-	
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B -頭	平均	-	-	-	-	
	去 C -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B 12頭	平均	-	1,834	1,578	1,368	-
		頭数	-	2	9	1	-
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	-
		頭数	-	-	-	-	-
	去 B 11頭	平均	-	-	1,569	1,491	-
頭数		-	-	8	3	-	
去 C 1頭	平均	-	1,591	-	-	-	
	頭数	-	1	-	-	-	

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜 売買	282 317	713 813	- 160.5	(競り)	(相対)	
				-	15	45

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,414	2,027	1,698	1,393	-
	B	-	1,410	1,501	1,301	-
和 去	A	2,354	2,208	-	-	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	1,037	-
	C	-	-	-	1,061	1,044
乳 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	-	1,641	1,565	1,431	-
	C	-	-	-	-	864
交 去	B	-	1,549	1,490	1,423	-
	C	-	-	1,393	-	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	964	1,072	1,000	950	908
	安値	947	907	842	557	312
	平均	953	948	929	836	542
	頭数	(8)	(279)	(310)	(109)	(107)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
搬入 相対	高値	-	997	975	-	497
	安値	-	997	756	-	346
	平均	-	997	840	702	443
	頭数	(-)	(3)	(6)	(1)	(5)

[大阪食肉卸売市場] 7月18日
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) [] は豚規格

	5[極上]	4[上]	3[中]	2[並]	1[等外]
和 雌 A	2,354	2,004	1,837	-	-
(頭数)	(16)	(9)	(3)	(1)	(-)
B	-	1,889	-	-	-
(頭数)	(-)	(1)	(-)	(-)	(-)
和 去 A	2,301	1,998	-	-	-
(頭数)	(9)	(5)	(1)	(-)	(-)
B	-	1,813	-	-	-
(頭数)	(-)	(1)	(-)	(-)	(-)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	1,752	1,668	1,523	-
C	-	-	1,483	-	-
交雑去 B	-	1,790	1,665	-	-
C	-	-	1,623	-	-
豚	-	-	-	-	-

[全国と畜概算頭数]
農水省統計部発表 (頭)

	7月18日	7月17日	(7月累計)
豚	59,100	58,100	799,000
成牛計	4,330	3,790	58,730
和牛雌	990	1,080	15,110
和牛去勢	1,000	1,200	16,100
乳牛雌	730	660	8,490
乳牛去勢	320	340	5,920
交雑雌	590	310	6,090
交雑去	670	200	6,920

[去勢牛B3・2規格 枝肉取引価格] 7月18日

	1,510円	(前日 1,485円)
東京		
大阪	1,665円	(前日 1,577円)

[豚・全農建値] 7月18日

上	中	取引頭数	市況
936円	919円	1,274頭	強もちあい

と畜 売買	牛 59頭 牛 86頭	豚 78頭 豚 45頭	牛概況 豚概況	もちあい まぢまち
----------	----------------	----------------	------------	--------------

各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 7月18日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	832 (821)	- (-)	5,274	-	上伸
仙台 [中]	919 (888)	823 (836)	314	38	続伸
栃木 [地]	- (901)	717 (833)	1,435	31	下落
茨城 [地]	939 (938)	887 (887)	778	358	もちあい
群馬 [地]	927 (916)	813 (796)	1,715	303	反発
さいたま [中]	925 (928)	919 (893)	165	161	弱もちあい
東京 [中]	948 (935)	929 (911)	713	813	上伸
横浜 [中]	936 (932)	911 (905)	610	617	もちあい
山梨 [地]	- (935)	- (895)	154	31	休市
浜松 [地]	- (-)	- (-)	-	-	競り休止
名古屋 [中]	955 (942)	907 (915)	912	209	続伸
京都 [中]	717 (840)	651 (743)	40	40	もちあい
大阪 [中]	- (879)	- (856)	78	45	まちまち
神戸 [中]	908 (863)	901 (847)	-	48	-
岡山 [地]	563 (694)	589 (619)	294	274	暴落
広島 [中]	873 (875)	838 (852)	238	64	もちあい
福岡 [中]	816 (831)	779 (805)	554	133	続落

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 7月11日～7月17日
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,589,923 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,242	1,458	1,531	1,418	80,359
うで	896	993	1,086	983	124,643
ロース	1,213	1,347	1,551	1,347	150,317
ばら	1,296	1,468	1,566	1,454	154,095
もも	831	882	987	897	186,565
ヒレ	1,218	1,350	1,392	1,319	11,045
セット	1,118	1,164	1,279	1,182	882,899

◇近畿圏 総重量 700,332 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,382	1,538	1,609	1,502	56,329
うで	878	906	940	907	118,105
ロース	1,270	1,364	1,454	1,350	98,591
ばら	1,395	1,458	1,558	1,454	116,923
もも	864	945	994	937	153,825
ヒレ	1,298	1,382	1,674	1,406	10,978
セット	1,037	1,267	1,374	1,274	145,581

[食鳥正肉日経相場] 7月17日
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (8社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	727	805	994	160
ムネ	497	558	693	150

◇大阪 (2社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	736	790	1,030	5
ムネ	497	537	632	3

[農水省統計情報部食鳥市況] 7月17日
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽モ	手羽サ	ササミ
高値	1,081	770	550	600	650
安値	700	528	290	360	350
平均	817	569	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉業界紙のパイオニア

食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

■業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

■畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 500頁 14,850円(送料別)

◆食肉販売&経営関連

銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 258頁 定価2,500円(送料別)

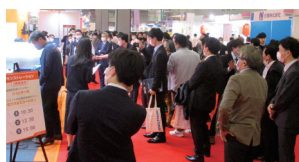
銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

◆イベント

■国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

お申し込みは電話かFAXで
お近くの食肉通信社まで

株式会社 食肉通信社

■大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510

■東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10

TEL 03(6206)0929 FAX 03(6206)0928

■九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995

※東京事務所は2025年2月10日より上記の新住所に移転しました。電話・FAX番号も変更となりましたので、宜しくお願致します。

週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランク判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、A4判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

◆教材&レポート等

■あなたの常識を強固にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男
鏡見 著

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

■~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ 牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

■職人の技を次世代へ繋ぐ、保存版 牛枝肉・部分肉の 分割と商品化

カラー写真も豊富で、各種規格、枝肉の分割から商品化までの全てが分かる一冊。

B5判 216頁 定価5,500円(送料別)

■知識を豊かにする 食肉用語事典

平成22年に新改訂した、定評のエンサイクロペディア。新訂正版は3,000語採録。

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

◆ステーションリー

食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します